



●記念講話「岩手県の公共事業について」

記念講話では、元岩手県盛岡広域振興局長木部長の佐藤英夫氏が「岩手県の公共事業について」と題して、岩手県の震災復興事業の現状と課題、コンクリート製品の印象などを中心に話を進めた。

岩手県の震災復興計画(8年間)は昨年度までに第1期「基盤復興期間」(3年間)を終え、第2期「本格復興期間」(同)に入った。震災発

生から4年が経過し、岩手県内の復興事業の規模が非常に大きくなり重要な局面を迎えている。

復興計画の折り返し地点で、道路や海岸の復旧などのインフラ整備はある程度進む一方、生活の基盤となる住まいやまちづくり、雇用の場の確保が課題となっている。県と市町村が建設を予定する災害公営住宅(復興住宅)は5933戸だが、用地確保の遅れが響いており、着工は4割の2415戸、完成は2割の1049戸にとどまっている。用地取得ではマンパワーが不足しているが、この分野は専門的な知識が必要で人材育成には時間がかかる上、地権者が被災者となっているケースも多い。特に共有地では権利人が24人、法定相続人が250人に達するケースなどもあり、作業は困難を極めているという。

各市町村では、持ち家再建のための宅地造成が始まったばかり。災害公営住宅(復興住宅)の建設は、ほとんどが完成まであと3年かかるとい段階で、集中復興期間が終わる来年度以降の財源確保が大きな課題となっている。被災した沿岸部は経済力が弱い地域で、地方の財政負担が発生すると、県や市町村が復興関連以外の予算を削って回すことになり、結果として県全体の生活や経済が劣化する。このため、国がさらに踏み込んで

理想的な高耐久性埋設型枠「SDPフォーム」の活用推進とPCa製品の新たな可能性を追求

新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

事務局 東京都墨田区両国4-38-1  
日本コンクリート技術(株)内  
TEL 03-5669-6653  
FAX 03-3632-2970  
URL www.new-pca.gr.jp

18社。差別化商品の開発、生産性向上技術の開発、開発商品の普及拡大、製品全般に関するコンサルティング業務の4つを柱として活動を行っている。

これまでに、自然共生型「じゃかブロック」をはじめ、都市型側溝「びったん溝」、薄型コンクリート製「SUSケーブルトラフ」、高耐久性埋設型枠「SDPフォーム」等を実用化したほか、2005年からコンクリート技術の向上と技術者間の交流ネットワーク構築などを狙いとして、コンクリート技術交流会を日本コンクリート技術と合同で開催している。コンクリート技術交流会は平成23年に発生した東日本大震災を機に、震災復興への貢献を目的としたコンクリート技術大会に移行した。

篠田会長は、「我々は研究者ではないので技術を共有して良い製品を作ることが基本だ。コンクリート技術大会は被災地を一巡することを念頭に開催してきたが、今回の盛岡大会で計画を達成した。来年からは東京に戻り、コンクリート技術交流会を開催したい」と述べ、コンクリート技術大会は今回の盛岡大会で区切りをつける考えを明らかにした。

●記念講話「岩手県の公共事業について」

記念講話では、元岩手県盛岡広域振興局長木部長の佐藤英夫氏が「岩手県の公共事業について」と題して、岩手県の震災復興事業の現状と課題、コンクリート製品の印象などを中心に話を進めた。

岩手県の震災復興計画(8年間)は昨年度までに第1期「基盤復興期間」(3年間)を終え、第2期「本格復興期間」(同)に入った。震災発

27年度定時総会開催

設立10周年祝う

新世代PCa工業会

篠田会長が再任

新世代PCa工業会(会長=篠田佳男氏)は10月26日、アイーナ(岩手県盛岡市)で平成27年度定時総会を開催した。総会では平成26年度事業報告・収支決算報告、平成27年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。任期満了に伴う役員改選では、篠田佳男会長の再任を決めた。



篠田会長

●プレキャスト比率向上の好機到来

総会開催にあたり挨拶した篠田会長は、「新世代PCa工業会も設立10周年を迎えることができた。これまでの会員各社の協力に感謝申し上げる。当工業会は、コンクリート製品会社や関係組織が英知を結集して自らが技術開発を行い、建設工事の合理化を推進し、社会

貢献を図ることを目的に平成17年10月に設立した。ちょうど日本コンクリート技術と会員社の新和コンクリートが、共同開発した自然共生型「じゃかブロック」が阿賀川災害復旧工事で実施されたことを受けて、工場見学を含めて会津若松市で設立総会を開催し、当工業会がスタートした。

プレキャスト製品は場所打ちコンクリートに比べ施工性に富んでおり、当工業会では「じゃかブロック」をはじめ、都市型側溝「びったん溝」、薄型コンクリート製「SUSケーブルトラフ」、高耐久性埋設型枠「SDPフォーム」などを実用化してプレキャスト化の推進に取り組んできた。しかしプレキャスト製品が抱えるコスト面の問題もあり、プレキャスト化率は当時から13%前後のままで、依然として場所打ちコンクリートが圧倒的に多い。

その一方で、この10年は100

Nを超える高強度コンクリートの開発やステンレス鉄筋のJIS化など様々な動きがあった。このような動きを上手く使い、会員各社がそれぞれの立場からアイデアを出し合い、賛助会員の皆さんの知見や技術協力を得ながら新たな情報を発信して行きたい。開発商品がブレイクするには時間が掛かるかも知れないが、社会に對し情報を発信し続けることが重要だ」と述べ、次の10年に向けた会員各社の協力を要請した。

議案審議は篠田会長を議長に選出して進められ、平成26年度事業報告・収支決算報告、平成27年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。任期満了に伴う役員改選では、篠田佳男会長の再任を決めた。

今回はステンレス鉄筋で補強した高耐久性埋設型枠「SDPフォーム」の普及拡大を図るため、壁高欄と耐震補強への適用に向けた取り組みを進める。壁高欄への適用では年度内に試験施工を実施する計画。また耐震補強への適用では、平成25年度から東京工業大学の二羽淳一郎研究室で、SD

PFフォームとPCストランドを併用した耐震技術の実用化に向けた構造実験を進めており、今期も12月4日に公開実験を行うことになっている。今期はこの他にも、ウェブサイトの改訂によるPR活動強化、新開発商品のステンレス鉄筋補強防風板の普及拡大、工業会取り扱い商品の営業用技術資料の整備などを進める計画だ。

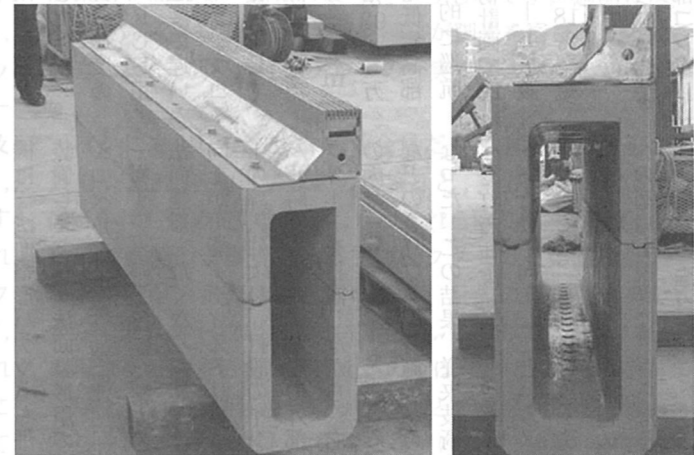
●新世代PCa工業会の10周年を振り返る

総会終了後、同工業会設立10周年を記念して映像を交えてこれまでの足跡を振り返った。

新世代PCa工業会は、建設現場の急速施工・省人化・省力化に貢献するPCa技術の構築と共有化を目指した活動集団として平成17年に発足。現在の会員社は正会員のコンクリート製品メーカー9社、材料メーカー・商社・設計コンサルタントなどの賛助会員9社の計



SUSケーブルトラフ



びったん溝